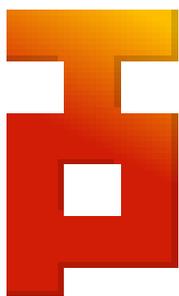


日本塑性加工学会  
東海支部新進部会  
あゆみ Vol .7



March 2022

## 目 次

1. 「新進部会のあゆみ Vol. 7」 発刊にあたって
2. 新進部会に期待すること
3. 東海支部新進部会活動の振り返り
4. スタッフ一覧&言葉
5. 編集後記&謝辞

## 1. 新進部会「あゆみ Vol. 7」発刊にあたって

2021年度リーダー 高橋 嘉仁 (デンソー)

新進部会は1994年度より実際の活動を開始し、2021年度で28年目を迎えました。この新進部会の活動を節目ごとに記録したものが「あゆみ」です。私は2020、2021年度とスタッフを経験させていただきましたが、新進部会は今も活動開始当初から伝承され続けている「若手による若手のための組織」として、以下のような理念・目的の下で活動を推進しています。

- ・若手会員同士で専門に関する意見・情報の交換を行い、視野を広げ、自分の立場を見直し、自己研鑽の糸口を見いだす機会を持つこと。そこで得られる交流・親睦の実を“横のつながり”とする。
- ・若手が大部分を占める場で先輩の話を聞いたり、指導を受けることにより、“縦のつながり”を作ること。
- ・普遍的な価値を持っている塑性加工の学問と技術の継承・発展に寄与する。

今回の「あゆみ Vol. 7」では2019年度から2021年度の3年間の活動をまとめておりますが、この3年間は、コロナウイルスの影響を大きく受け、活動形態が大きく変わる3年間でした。これまで、顔を突き合わせメンバー同士で議論を交わし、時にはお酒を交わしながら「横のつながり」を築いていましたが、コロナ禍の影響でミーティングは全てリモート会議になり、講演会や研修会もオンラインで行うなど、直接会うこともままならない状況となりました。メンバー同士で会うこともできない状況に、もどかしい想いをすることも何度もありましたが、そういった状況の中でも、新進部会の理念・目的の下、メンバー間で議論を重ねてこれまでの活動を推進することができました。

このVol. 7には、オンラインでの若手討論会や異業種工場見学など、コロナ禍による環境変化に対応するために、新進部会としては初めての取り組みとなるオンライン形式で行った行事の内容を記載しております。また、そのような状況の中で活動を推進してきたメンバー達の新進部会スタッフとしての想いもそれぞれ綴っております。これらの活動・想いを歩みとして残すことで、新たな気づきを得るとともに、これからの新進部会の活動の参考になれば幸甚です。また今回の「あゆみ Vol. 7」より、本冊子を電子化させていただく事に致しました。そうすることで、新進部会の活動をモノクロではないカラーのデータとして残し、新進部会の活動をより多くの方に知って頂くとともに、これまでの諸先輩方から受け継いだ新進部会の理念や目的をより鮮明に伝承し続けることができ、これからの新進部会の活動の益々の発展につながっていくものと思います。

最後になりますが、活動を共にしたスタッフ、ならびに東海支部幹事の皆様には、新進部会の活動にご理解とご協力をいただき、新進部会の活動を推進することができました。本当にありがとうございました。

## 2. 新進部会に期待すること

第 41, 42 期東海支部支部長 小森和武 (大同大学)

1993 年 12 月に東海支部に新進部会が設立された背景は、設立 20 周年を記念して執筆された報文<sup>1)</sup>によれば以下の様である。すなわちまず、東海支部における 35 歳未満の正会員の割合は、1986 年には 30% であったが、1992 年には 23% に減少した。そこで、当時の東海支部幹事会は、将来の塑性加工の継承と発展に対する危機感を持つと共に、若手の技術者や研究者の期待に応える事業及び学会活動への参加を促進する事業の展開が必要であると考えた。その結果、東海支部に新進部会が設立された。

このようにして設立された新進部会が、現在においても活発に活動していることは非常に素晴らしいことである。もちろん、小職の知る限り、東海支部幹事会において新進部会の廃止が議論されたことは一度もない。ここで、小職は若手による委員会という言葉から小職が委員を務めた本部の会報発行委員会を直ちに連想する。もちろん、会報発行委員会は現在では存在しないと共に、存在したことも現在では殆ど忘れられている。そこで、何らかの意味で会員の参考になることを願って、小職の記憶を頼りに会報発行委員会を以下に紹介したい。

学会誌第 29 巻第 329 号(1988 年 6 月)の 642 頁の埋め草記事によれば、同年 5 月 1 日付けで創刊された会報「プラストス」を発行することの意義は以下の様である。すなわちそれは、塑性加工とその関連分野に関する情報交換や会員相互の意見交換の場を設けることにより、多様な会員の要望に応えると共に本学会に未加入の学生や技術者に対して本学会の存在を訴えること、である。この意義を達成するために、お目付役である委員長及び副委員長を除いて、概ね 35 歳未満の正会員が会報発行委員に選ばれた。ここで、委員会発足時の委員は学会誌同巻同号の 603 頁の埋め草記事で紹介されている。会報「プラストス」は A4 判で 8 頁の小冊子であり、年 2 回すなわち春季講演会時と連合講演会時に配布された。

会報「プラストス」は小冊子であったため、本学会に未加入の学生や技術者に対して本学会の存在を訴えることに一定の役割を果たしたと理解している。小職はかつての小職の指導教官であると共に本学会の会長でもあった室田先生に若者を励ます記事の執筆を依頼している。その記事の中に、室田先生が終戦直後に日本橋の丸善で Hi11 の塑性学の原著を 3, 4 千円支払って清水の舞台から飛び降りる積もりで購入した旨の記述がある。ここで、当時の 3, 4 千円は当時の大卒の初任給にほぼ等しいはずである。この記事を読んで以降、小職は躊躇することなく何万円もする専門書を購入出来る様になった。ただ、本部の財政状況の悪化のため、学会誌第 36 巻 413 号(1995 年 6 月)の 606 頁の報文によれば、会報の編集センスを学会誌に盛り込むことにより会報の廃刊が決定された。

幸いにも東海支部幹事会の諸先輩方の努力により東海支部の財政状況は健全である。そのため、東海支部の財政状況の悪化のため、新進部会が廃止されることは当面はないと考える。従って、新進部会が今後も新しい企画をどんどん実行すること希望する。ここで、小職は個人的には「ものづくりの現場で働く若手技術者の日常」に興味を持っており、小職の研究室の卒研生に毎年この企画行事に参加するよう促している。また一方、東海支部幹事会が今後も新進部会に金銭的な援助を行うが新進部会の企画行事の立案に干渉しないように注意したい。

- 1) 尾林崇士, 新川真人: 東海支部新進部会 活動の振り返りとこれから～設立 20 周年を迎えて～, 塑性と加工, 56-652(2015), 397~400.

### 3. 東海支部新進部会活動の振り返り

2019年4月～2022年3月まで、東海支部新進部会が企画・運営を行ったイベントを主に紹介する。

開催時期	活動内容	開催場所
2019年4月	大学見学会と第248回スタッフ会議	名城大学天白キャンパス
5月	工場見学会と第249回スタッフ会議	JFEスチール 知多製造所
6月	工場見学会と第250回スタッフ会議	三菱重工業 名古屋航空宇宙システム製作所
7月	工場見学会と第251回スタッフ会議	アイシン精機 新豊工場
8月	工場見学会と第252回スタッフ会議	デンソー 本社
9月	施設学会と第253回スタッフ会議	名古屋市工業研究所
10月	・第43回討論会 「身近なものから学ぶ塑性加工」 ・工場見学会と第254回スタッフ会議	・名城大学 ・青山製作所 本社
11月	第44回討論会 「ものづくりの現場で働く若手技術者の日常」 ・工場見学会と第255回スタッフ会議	・名城大学 ・UACJ名古屋製造所
12月	工場見学会と第256回スタッフ会議	アイシンAW 本社技術センター
2020年1月	工場見学会と第257回スタッフ会議	日本製鉄 名古屋製鉄所
2月	工場見学会と第258回スタッフ会議	トヨタ自動車 本社地区
3月	スタッフ研修会 (「COVID-19」の影響により中止)	沖縄県金型技術センター・沖縄県工業技術センター
6月	第259回スタッフ会議	オンライン開催
7月	会社紹介と第260回スタッフ会議	オンライン開催 アイシン精機会社紹介
8月	会社紹介と第261回スタッフ会議	オンライン開催 デンソー会社紹介
9月	施設紹介と第262回スタッフ会議	オンライン開催 名古屋市工業研究所施設紹介
10月	会社紹介と第263回スタッフ会議	オンライン開催 青山製作所会社紹介
11月	会社紹介と第264回スタッフ会議	オンライン開催 UACJ会社紹介
12月	会社紹介と第265回スタッフ会議	オンライン開催 日本製鉄会社紹介

開催時期	活動内容	開催場所
2021年1月	会社紹介と第266回スタッフ会議	オンライン開催 アイシンAW会社紹介
2月	・スタッフ研修会 「オンライン工場見学（松下石材店）」 ・第45回討論会 「塑性加工の基本講座（Webセミナー）」 ・会社紹介と第267回スタッフ会議	・オンライン開催 ・オンライン開催 ・オンライン開催 トヨタ自動車会社紹介
3月	会社紹介と第268回スタッフ会議	オンライン開催 愛知製鋼会社紹介
4月	会社紹介と第269回スタッフ会議	オンライン開催 三菱重工業会社紹介
5月	会社紹介と第270回スタッフ会議	オンライン開催 デンソー会社紹介
6月	会社紹介と第271回スタッフ会議	オンライン開催 アイシン会社紹介
7月	施設紹介と第272回スタッフ会議	オンライン開催 名古屋市工業研究所施設紹介
8月	会社紹介と第273回スタッフ会議	オンライン開催 青山製作所会社紹介
9月	会社紹介と第274回スタッフ会議	オンライン開催 UACJ会社紹介
10月	活動紹介と第275回スタッフ会議	オンライン開催 豊田高専活動紹介
11月	・第46回討論会 「ものづくりの現場で働く若手技術者の日常」 ・会社紹介と第276回スタッフ会議	・オンライン開催 ・オンライン開催 JFEスチール会社紹介
12月	・会社紹介と第277回スタッフ会議	オンライン開催 愛知製鋼会社紹介
2022年1月	・第47回討論会 「AI/IoT/ビッグデータ技術を活用したものづくり」 ・スタッフ研修会 「株式会社パトライトオンライン工場見学」 ・会社紹介と第278回スタッフ会議	・オンライン開催 ・オンライン開催 ・オンライン開催 トヨタ自動車業務紹介
2月	第279回スタッフ会議	オンライン開催
3月	第280回スタッフ会議	オンライン開催

### 3. 1. 第 43 回討論会 「若手討論会」

～身近なものから学ぶ塑性加工～

令和元年 10 月 於 名城大学 理工学部 タワー75

#### 1. 行事概要

令和元年 10 月 25 日(金)に日本塑性加工学会東海支部新進部会【第 43 回討論会「若手討論会」～身近なものから学ぶ塑性加工～】を名城大学 理工学部 タワー75 で開催した。

本企画では、塑性加工技術者だけでなく、これから塑性加工に関わるものを対象として、馴染みのある身近な製品の成形技術について、様々な分野の、研究開発の第一線でご活躍されている講師をお招きして講演いただき、議論や情報交換を行い、講演参加者が異分野の成形技術を学ぶことで、今後の塑性加工とその周辺分野の発展につなげるための機会を設けた。

#### 2. プログラム

##### 1. 開会の挨拶

三菱重工業(株) 金澤 勇也 氏

##### 2. 講演Ⅰ『製缶技術の変遷』

東洋製罐グループホールディングス(株) 松本 尚也 氏

##### 3. 講演Ⅱ『電動化・自動化に貢献する減速機開発への取り組み』

サイバックコーポレーション(株) 田中 謙一 氏

##### 4. 講演Ⅲ『熱可塑性樹脂の射出成形とその周辺技術』

岐阜大学 新川 真人 氏

##### 5. 講演Ⅳ『食器の成型技術とその周辺技術について』

(株)ノリタケカンパニーリミテド 川村 拓也 氏

##### 6. 総合討論

(司会)名城大学 古川 泰晴 氏

討論会後：懇親会

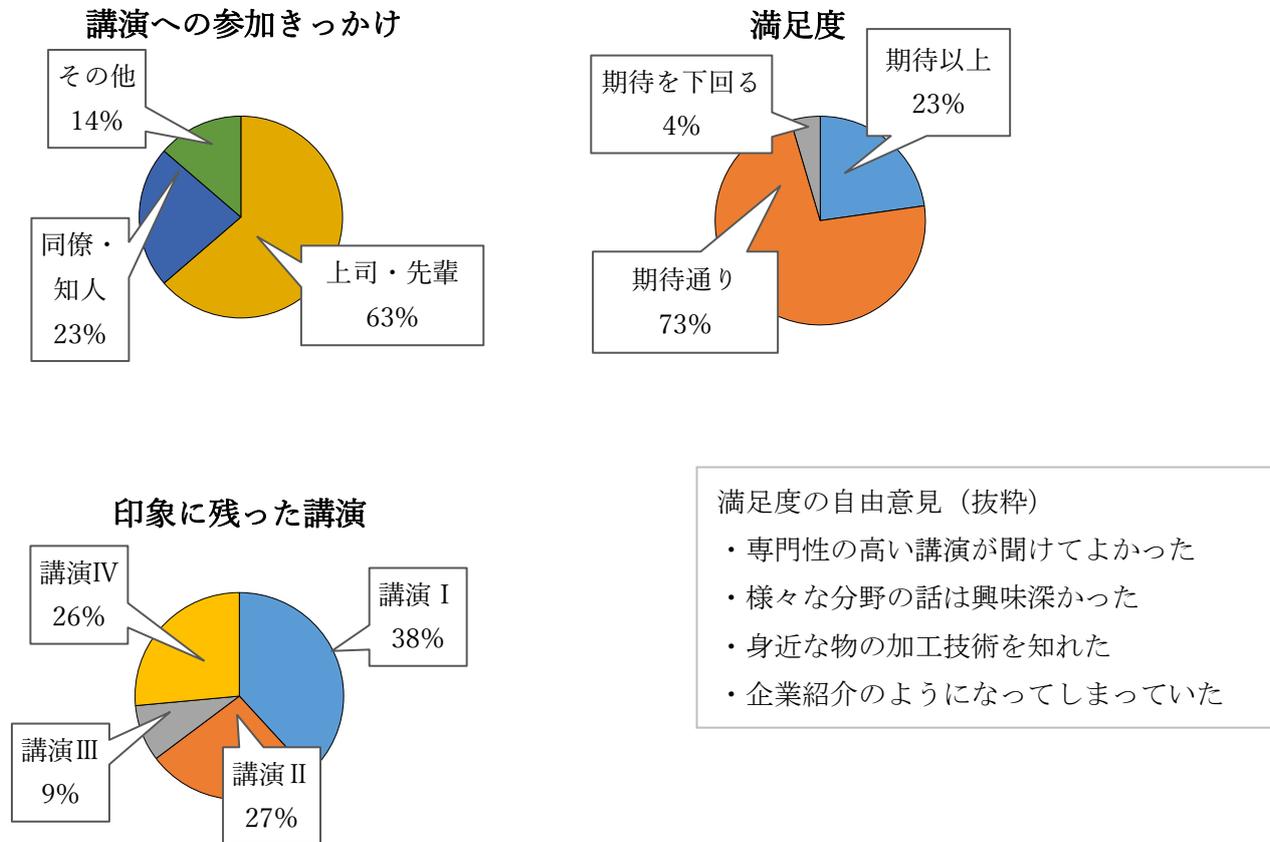
#### 3. 討論内容

今回の講演会では表題のテーマの下、金属成形、樹脂成形、セラミクス成形といった多彩な分野の研究者の方々よりご講演いただいた。各分野の最先端の技術の数々に、聴講者はみな興味深く聞き入っていた。講演の後、聴講者と講演者は、総合討論、懇親会を通して、分野や業種を超えて活発にコミュニケーションを行い、いろいろな気づきや学びを得ることができ、大変有意義な会になったように思う。



写真：講演， 総合討論時の風景

#### 4. アンケート結果



講演参加のきっかけとしては、近い関係性の方からの紹介がほとんどであった。新進部会の HP にも情報記載したがそこからのアクセスはなく、あまり機能していないと思われる。4 名の講演については好意的な意見が大多数であり、また満足度も高いことから、講演のテーマや講演者の選定がよかったと考える。自由意見では、質疑応答の時間が長いという意見もあり、時間配分については今後一考を要する。

### 3. 2. 第 44 回討論会 「若手討論会」

～ものづくりの現場で働く若手技術者の日常～

令和元年 11 月 於 名城大学 理工学部 タワー75

#### 1. 行事概要

令和元年 11 月 22 日(金)に日本塑性加工学会東海支部新進部会【第 44 回討論会「若手討論会」～モノづくりの現場で働く若手技術者の日常～】を名城大学 理工学部 タワー75 で開催した。本企画では、昨年度と同様、今後、社会で活躍する学生の方々にもものづくりの現場でこれまで学んできたことを活用するイメージをつかんでいただくために、塑性加工に携わる若手技術者の日常を交えた講演を聴講いただいた。

#### 2. プログラム

〈当日のスケジュール〉

開会の挨拶 三菱重工業(株) 金澤 勇也 氏	(13:30～13:40)
講演	(13:40～17:00)
総合討論	(17:00～17:30)
討論会後：懇親会	(17:30～19:00)

〈講演者〉(講演当時)

講演Ⅰ：(株)青山製作所  
生産技術本部 生産技術グループ 生技 3 チーム  
太田 佳寛 氏

講演Ⅱ：JFE スチール(株)  
スチール研究所 鋼管・鋳物研究所  
赤池 淳 氏

講演Ⅲ：三菱重工業(株)  
民間機セグメント 民間機事業部 部品工作部 工務課 プロジェクト T  
金澤 勇也 氏

講演Ⅳ：名古屋市工業研究所  
システム技術部 生産システム研究所  
村田 真伸 氏

講演Ⅴ：トヨタ自動車(株)  
素形材技術部 鍛圧技術室  
五十川 雅之 氏

講演Ⅵ：(株)デンソー  
生産技術研究部 塑性加工研究室  
栗木 健 氏

### 3. 討論内容

今回の講演会では表題のテーマの下、運営スタッフ6名が、企業における技術者としての働き方や日常について講演を行った。聴講者は学生を対象とし、計35名の参加があった。講演の主旨は、将来活躍する学生の皆様に、塑性加工の現場での働き方をイメージしていただくというもので、会社紹介や技術紹介ではなく、講演者の日常に重きを置いた内容とした。講演後や、その後開催した懇親会で学生から多くの質問を頂き、「エンジニアとして働く自分の将来像をイメージできた」など、好評であった。



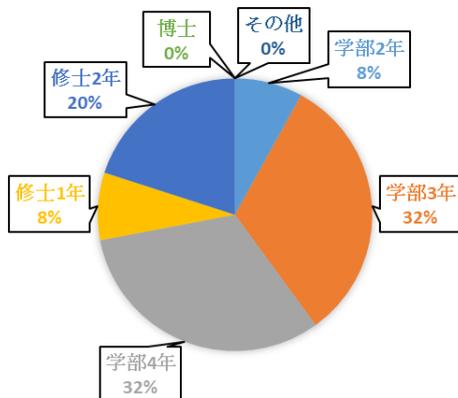
写真：講演，総合討論時の風景



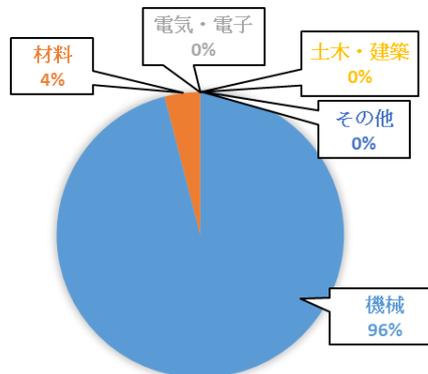
写真：懇親会の様子

### 4. アンケート結果

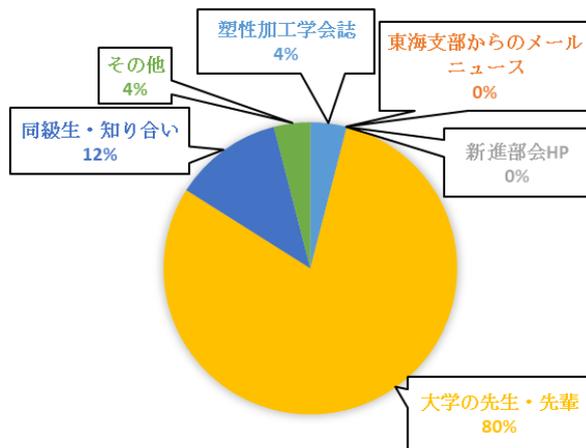
(1) 参加者(学生)の学年



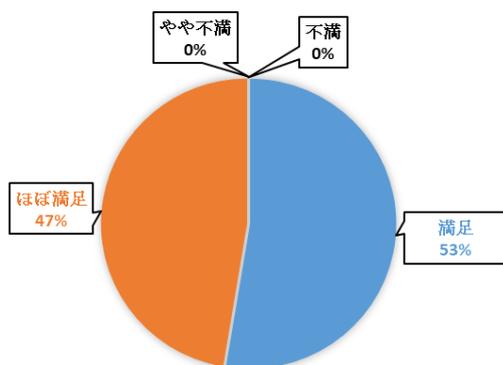
(2) 参加者(学生)の学科



(3) 講演に参加したきっかけ



(4) 満足度とその理由



満足度の自由意見（抜粋）

- ・各企業の考え方を知ることができた。大変貴重な体験ができた。
- ・インターンや説明会では聞けない話が聞けた。
- ・ものづくりの現場で働くイメージが持てた。働く上で大切なことを知ることができた。
- ・業務内容、予定、苦勞、やりがいを知ることができた。

参加者は、学部生、機械系の学生が多く、討論会を知ったきっかけは大学の先生・先輩からが多いなど口コミによる情報拡散が効果的であると思われる。また、満足度は非常に高く、自由記述欄にも好意的な意見が多く寄せられた。

### 3. 3. スタッフ研修会（2020 年度）

#### 1. 研修会の概要

見学先（オンライン）：松下石材店

訪問日：令和 3 年 2 月 15 日

#### 2. 趣旨

新型コロナウイルスの影響を考慮し、初めてオンラインにて工場見学を行った。普段接する機会のない分野を見学することで新しい知見を深めることを目的に実施した。

国会議事堂にも使用されている石材を採石し、建築からコースターなどの小さな製品まで加工しており、幅広い取り組みに感銘を受けた。

オンラインは初の試みだったが、質問と回答の共有もしやすく、短時間で多くの見学をすることができ非常に有意義な時間であった。



写真：オンライン工場見学の様子

### 3. 4. 第 45 回 「若手討論会」

令和 3 年 2 月 26 日に Web セミナー形式で第 45 回若手討論会を開催しました。この討論会では、近年の塑性加工における解析技術を用いた低コスト化などに伴い、より実加工に近い解析が求められ、そのために高精度な材料パラメータの入力が必要とされていることから、薄板単軸引張試験を用いた材料パラメータ同定の実演と題して実施しました。当日は、約 70 名と多く方に視聴していただき、ひずみゲージの貼り方から薄板単軸引張試験の試験方法について解説・実演、その後、試験で得られたデータから材料パラメータを同定する手法を参加者にも体験してもらいました。質疑応答では、参加者から多くの質問をいただき活発な議論を行うことができたことから有意義な討論会を開催できました。引張試験での基礎から応用まで、短い時間ではありましたが参加者への塑性加工の理解をより一層深めることに繋がれることに貢献できたと感じました。

### 3. 5. 第 46 回討論会 「若手討論会」 ～ものづくりの現場で働く若手技術者の日常～

令和 3 年 11 月 Web 開催

#### 1. 行事概要

令和 3 年 11 月 5 日(金)に日本塑性加工学会東海支部新進部会【第 46 回討論会「若手討論会」～ものづくりの現場で働く若手技術者の日常～】を Webex Events を用いて、オンライン形式で実施した。学生を対象に、塑性加工に関わる若手技術者のリアルな日常を伝えることをテーマに講演を行った。特に今回は、コロナによって働き方がどの様に変ったかを主軸に構成した。代表 3 社による講演の後、よりリアルな日常や経験を伝えるために、新進部会メンバー全社参加での質疑応答会も実施した。

#### 2. プログラム

- |         |           |          |
|---------|-----------|----------|
| 開会の挨拶   | 三菱重工(株)   | 石井 悠嗣氏   |
| 1. 講演Ⅰ  | (株)デンソー   | 高橋 嘉仁氏   |
| 2. 講演Ⅱ  | トヨタ自動車(株) | 鈴木 哲氏    |
| 3. 講演Ⅲ  | (株)青山製作所  | 廣瀬 天人氏   |
| 4. 質疑応答 |           | 新進部会メンバー |

#### 3. 討論内容

近年、塑性加工を取り巻く環境が、デジタル化(DX)の波で大きく変わっていると実感している。その様な中で、変化している点(3Dモデル, CAEの活用など)と、変わらない点(現場でのモノづくり, 海外での活躍など)を、実例を交えて講演した。

また、コロナによって変化した働き方やライフスタイル(在宅勤務, リモートツール活用)も、実例を基に紹介することで、日々変化している我々の日常を学生に伝えた。

質疑応答時間では、今回講演しなかった新進部会メンバーも加わり、その場で質問を集いながら、時間いっぱい学生と交流を行った。



写真 左：講演中の様子，右：質疑応答の様子

#### 4. アンケート結果の抜粋

##### Q. 講演は満足されましたか？

満足：88% やや満足：12% やや不満/不満：0%

##### Q. 講演内容のバランスはいかがでしたか？

長い：0% やや長い：12% 適切：88% 短い：0%

##### Q. 今回の行事に参加された動機は何ですか？

- ・進路希望の会社が多く、その生活を教えてくださる機会は少ないと思い参加した
- ・実現場でどのような業務を行っているのか、参考になればと考え参加した
- ・塑性加工の技術がどのように現場で使用されるのか拝見したかったため

##### Q. WEB での講演はいかがでしたか？

- ・回線状況が少し悪く、音声聞こえづらい箇所があった
- ・対面での講演も良いがWEBの場合、気軽に参加できる点が良いと感じた

##### Q. 今後どのような行事に参加したいですか？

- ・zoomのブレイクアウトルームのような機能を使って、個別にお話を伺ってみたい
- ・若手社員の方の就職してみてものお話や、就職活動のアドバイス等を聞ける場
- ・他の企業説明会もお聞きしたいなと思いました

##### Q. 全体的に感想をお願い致します

- ・会社説明会では聞けない内容を、じっくりと聞くことができ、働くイメージがつかめた
- ・事前のアンケートにもお答えいただき、大変参考になりました
- ・英語の勉強というワードがよく出ていたので、就活と合わせて勉強していきたいと思った

#### 5. 所感

コロナ禍でのオンライン開催であったが、アンケート結果から、概ね満足のいくイベントになったと感じた。学生向けの講演は、改めて自身の業務を見直すいい機会となった。一方、会告のみでは十分な集客が来ず、出身大学に直接告知をし、集客を行った。各種活動の発信をより学生に届きやすい形で実施することが今後必要と感じた。

本年度の活動から既に半年以上経過していたが、新進部会メンバーと初顔合わせができたことも感慨深かった。以前の様に、より深い企業間交流が出来る日を心待ちにしている。



写真：討論会後の記念撮影

### 3. 6. スタッフ研修会（2021 年度）

#### 1. 研修会の概要

スタッフ研修会は新進部会メンバーの新しい知識の獲得とメンバー同士のつながりの強化を目的に東海地区以外の地区の工場や研究機関の見学会を実施するものである。しかしながら、今年度は新型コロナウイルスの影響で見学会を行うことが出来なかったため、オンラインによる工場見学会を企画した。オンライン工場見学ではIoT(Internet of Things)技術に関連することを紹介して頂くことで、メンバーはIoT技術の重要性を改めて確認でき、仕事に役立つ有益な知識を吸収できる機会となった。

#### 2. 研修会 訪問先

株式会社パトライト(実施日:2022年01月28日)

<趣旨>

近年、製造業ではIoT技術やDX(Digital Transformation)技術をうまく活用することで仕事の高効率化や研究者、技術者の仕事の付加価値を高めることが重要であるといわれている。そこで、製造現場でIoT技術を活用している株式会社パトライトのオンライン工場見学を行った。株式会社パトライトはIoT技術によって製造現場でのムダの見える化を可能とし、生産性を大幅に向上させている。オンライン工場見学ではIoT技術を導入するまでの経緯や失敗談、今後の展望などを紹介して頂くことで、IoT技術を活用していくうえでの着目点や注意点が学べる有意義な見学となった。

### 3. 7. 第 47 回討論会 「若手討論会」

～AI/IoT/ビッグデータ技術を活用したものづくり～

令和 4 年 1 月 於 Web セミナー

#### 1. 行事概要

令和 4 年 1 月 27 日(木)に日本塑性加工学会東海支部新進部会【第 47 回討論会「若手討論会」～AI/IoT/ビッグデータを活用したものづくり～】を Web セミナー形式で開催した。

本企画では近年開発が進んでいる AI/IoT/ビッグデータ技術を用いて、塑性加工の分野にどのようなデータが用いられるのか、また取得する材料データの測定技術について研究開発の第一線でご活躍されている講師をお招きし、本討論会を通じて議論や情報交換を行い、講演会参加者が今後の塑性加工分野の発展につながる新たな気付きを得る機会を設けた。

#### 2. プログラム

##### 1. 開会の挨拶

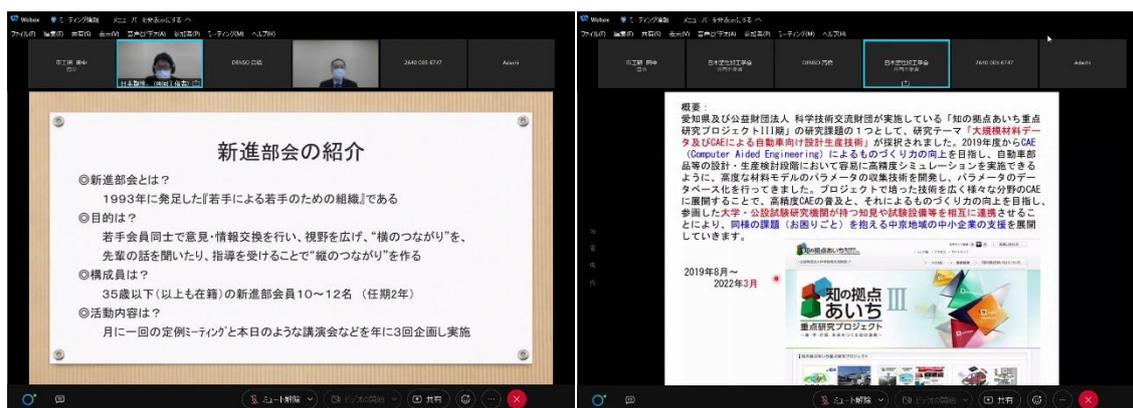
株青山製作所 廣瀬 天人 氏

##### 2. 講演『大規模材料データおよび CAE による自動車向け設計生産技術』

名古屋工業大学 西田 正弘 氏

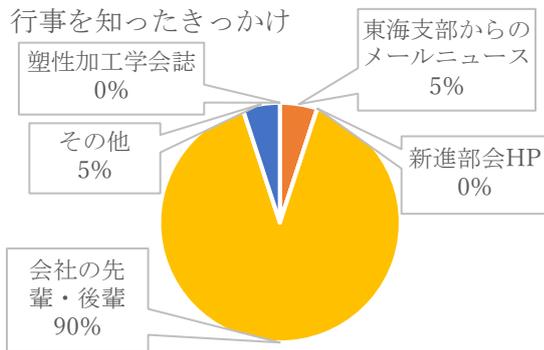
#### 3. 討論内容

本討論会は Webex Events を使用した Web セミナー形式で行われ、今回の講演会では表題のテーマの下、塑性加工分野においても設計生産技術として普及が進んでいる CAE に焦点を当て、解析に必要な材料データの最新の測定技術、測定した材料データを用いた解析事例、取得した材料データを統合する材料データベースについて御紹介いただいた。参加者には事前に質問を募集しており、御講演中に寄せられた質問と合わせて質疑応答、総合討論を行った。



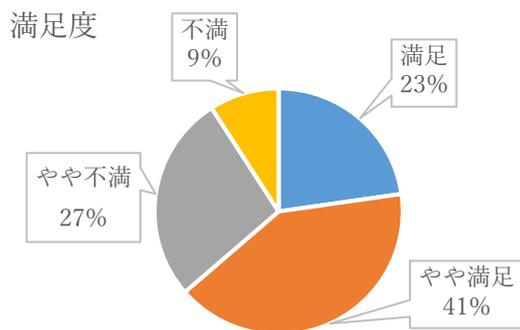
写真：講演の風景 (Webex Events)

#### 4. アンケート結果

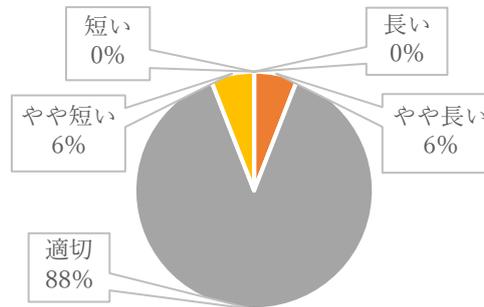


#### 参加した動機（抜粋）

- ・タイトルに興味を持ったため
- ・業務に活用できないか検討中のため
- ・情報収集のため
- ・今後必要となるキーワードであるから
- ・会社として何が必要か気になったため
- ・実例が見てみたいから



#### 講演時間のバランス



#### 満足度の理由（抜粋）

##### ○満足、やや満足

- ・説明が丁寧であり内容を理解しやすかった
- ・CAEによる材料設計の基盤的な取り組みが勉強になったため
- ・データの採取、活用の大切さを感じることができた
- ・あまり知識のない分野だったので活動内容が分かってよかった
- ・CAE技術は多くの人の地道な試験や実験の上、成り立っていることを学べた

##### ○やや不満、不満

- ・少し内容が難しかったため
- ・思っていた内容とは少々ズレがあったため
- ・CAEの使用事例が聞きたかった
- ・もう少し細かい内容が欲しい

講演会を知ったきっかけは、メールニュースから知った方からの口コミなどによる参加が多くを占めており、HPや学会誌などからの情報発信以外の方法を模索する必要があるかと思われる。また、新進部会では初となる外部の講師をお呼びしたweb講演会ではあったが、講演時間について適切との評価で占められており、webセミナー形式における運営への指摘は無かった。

#### 4. スタッフ一覧&メンバーの言葉

本章では 2019 年度から 2021 年度までのスタッフを紹介する。

##### 4. 1. スタッフ一覧

###### ■2019 年度（第 26 期）

氏名	所属
金澤 勇也（リーダー）	三菱重工業
村田 真伸（副リーダー）	名古屋市工業研究所
吉川 泰晴	名城大学
栗木 健	デンソー
太田 佳寛	青山製作所
野田 篤志	アイシン精機
五十川 雅之	トヨタ自動車
江崎 裕司	アイシンAW
井上 翔吾	愛知製鋼
木本 野樹	日本製鉄
吉田 智徳	UACJ
赤池 淳	JFEスチール

###### ■2020 年度（第 27 期）

氏名	所属
村田 真伸（リーダー）	名古屋市工業研究所
高橋 嘉仁（副リーダー）	デンソー
浅井 一仁	豊田高専
廣瀬 天人	青山製作所
野田 篤志	アイシン精機
五十川 雅之	トヨタ自動車
江崎 裕司	アイシンAW
吉田 智徳	UACJ

赤池 淳	J F E スチール
名取 純希	日本製鉄
井上 翔吾	愛知製鋼
石井 悠嗣	三菱重工業

■2021 年度（第 28 期）

氏名	所属
高橋 嘉仁（リーダー）	デンソー
稲垣 薫（副リーダー）	アイシン
浅井 一仁	豊田高専
廣瀬 天人	青山製作所
池田 善人	愛知製鋼
鈴木 哲	トヨタ自動車
吉村 悠佑	J F E スチール
劉 午陽	U A C J
田中 智也	名古屋市工業研究所
石井 悠嗣	三菱重工業

## 4. 2. メンバーの言葉

### コロナ禍を超えて

村田真伸（名古屋市工業研究所）

2019年度から2年間参加し、2020年度にはリーダーを務めました。新進部会の活動は知っていて興味もありましたが、すでに「若手」の範囲を超えていたので声がかかるとは思っていませんでした。

“範囲外”でも皆さん暖かく迎えてくれたのですぐに溶け込むことが出来ました。このオープンな雰囲気も新進部会の良いところだと思います。1年目は、各社で開催される月1回の定例ミーティング兼工場見学会に参加し、行事①、②をお手伝いしました。また、MHI金澤リーダーの「交流会は毎月開催！」との方針の元、スタッフ同士かなり“密”に交流できたと思います。ところが2020年2月頃、新型コロナウイルスの発生が確認されると状況が一変しました。予定していた行事は中止となり、ミーティングもできない活動停止状態になってしまいました。オンラインにより6月に活動を再開しましたが、スタッフ皆が慣れていないのに加え各社の対応するシステムがバラバラだったので調整が大変だったことを覚えています。ただ、はじめこそ戸惑いがあったもののスタッフ全員が積極的かつ自主的に行動することで、2020年度行事②「塑性加工の基本講座(Webセミナー)」、行事③「オンライン見学会」と企画し、成功させることが出来ました。コロナ発生以降、リアルの工場見学会や交流会ができなかったことは残念でしたが、形を変えつつも新進部会の活動を継続できたことはとても良かったと思います。一緒に頑張ったスタッフの皆さんありがとうございました！この投稿を執筆している2022年1月時点ではまだコロナが収束していませんが、落ち着いたらOB会やりましょう！

### 新進部会のスタッフ活動を振り返って

野田篤志（アイシン）

2019年度から2020年度の2年間にわたり、新進部会のスタッフを務めさせていただきました。初年度は何をやっているのか分からず、ただただ先輩方の活動に参加するだけの状態でした。その中で、日頃なかなか接点のない業種の技術者の方との交流や、各社の工場を見せて頂き、大変勉強になり、加えて新たな刺激を頂いたことで仕事に対するモチベーションが上がる大変有意義な活動となりました。ただ、最終年度はコロナウィルスの影響でオンラインでしか開催する事が出来なくなってしまった事は非常に残念でありました。

2年目ではそのようなコロナ禍で例年実施している工場見学を企画する役割を担わせて頂きました。オンラインという新たなスタイルでの工場見学を企画し、それを引き受けて頂けるメーカー殿を探すことに苦労しましたが、快く引き受けて頂けるメーカーを探すことが出来ました。しかも日ごろは目にす

ることが出来ない採掘場&石材加工の工場見学でしたので、新たな知見を得ることが出来非常に良い経験をすることが出来たと感じております。

スタッフとの2年間の交流で技術的な話や各社の状況や想いを直接聞くことが出来自分自身の視野も広がり、非常に貴重な時間であったと改めて感じております。最後になりましたが、現スタッフの皆様、及び新進部会の活動を支援していただいた皆様に感謝を申し上げます。今後より一層の新進部会の発展となるように期待しております。本当にありがとうございました。

## 新進部会のスタッフ活動を振り返って

五十川 雅之（トヨタ自動車株式会社）

2019年4月～2021年3月の間、新進部会に参加させていただき、塑性加工に関して、歴史の理解を深め、技術的な視野を広げることができました。

新進部会に参加するにあたり、過去の参加メンバーや行事を調べた際、本部会に弊社のベテラン社員が多数参加してきており、刀鍛冶見学や他県企業様への見学会等、様々な活動をされてきた経緯を知りました。私は入社以来の9年間、鍛造業務を通じて塑性加工に携わっていますが、工業大国である東海エリアの塑性加工の歴史を知りました。

また、毎月の楽しみでもあったメンバーの所属会社の工場見学会では、メンバーから直に案内や説明をいただけることもあり、普段では聞けないような苦労話や拘りポイント等を聞くことができ、非常に有意義な経験をさせていただきました。自社内での業務だけでは携われないような工法や、生産ライン等を多数紹介いただいたことに加え、自社紹介では、自社では当たり前と考えていた生産ラインの構成が他社様では当たり前ではなかったりと、塑性加工の技術について視野を広げることができました。

最後に、本活動を通じて、塑性加工に携わる同世代のメンバーとめぐり会えたことが一番の財産だと考えています。企業・研究機関の垣根を越えて、気さくに話し合えるメンバーと出会えることこそ、本活動の醍醐味の1つではないかと考えます。このような機会を与えてくださった上司と塑性加工学会に感謝をすると同時に、今後の塑性加工と社会の発展に貢献できるよう、精進していきたいと思っております。

## 新進部会の活動を振り返って

江崎 裕司（株式会社アイシン）

2019年度から2020年度の2年間、新進部会スタッフを担当させていただきました。社会人となってそれまで塑性加工業務に携わっていましたが、学会の活動には無縁で、新進部会の活動も存じ上げず、自分が役に立つのだろうかという不安な気持ちがありました。そんな中、初めてのスタッフミーティングに参加しましたが、自由闊達な議論で様々な考え方にふれることができ、役に立つ云々の前

に、改めて自身の視野を拓けられる良い機会であり、前向きに活動していこうと思ったことを記憶しております。

1年目の活動では先輩スタッフ皆様の奮闘で行事1と2のイベントを名城大学で執り行い盛況に終わることができました。その後、コロナが猛威をふるい、スタッフミーティングもままならず、楽しみにしていたスタッフ研修会も中止となってしまいました。また2年目の活動として、行事1のリーダーを務め、企画立案・開催準備まで整った状況で、その時の母体行事であった塑性加工春季講演会が中止となり、我々のイベントも中止せざるを得ない結果になってしまったことは残念な思い出です。しかしながら、そこからもリモートミーティングで侃々諤々の議論を重ね、新進部会では前例のなかったWebイベントを開催・成功につなげることができたことは、スタッフ皆様のエネルギーを感じ、有意義な活動でした。一方でリモートでの活動も時代の進歩ではありますが、やはり技術者としては現地現物にふれる機会も大切にしていきたいです。少しでも早くコロナが収束しスタッフが集まれる日がくることを願っております。ミーティング後の交流会も楽しいですしね。

最後にはなりますが、活動にご協力頂いた先生方、企業の方々、そしてスタッフの皆様に感謝申し上げます。また塑性加工学会、新進部会の益々のご発展を祈願いたします。

## 新進部会の2年

井上 翔吾（愛知製鋼株式会社）

最初は上司の一言「塑性加工学会、新進部会をやってくれ」で始まった。私は特に内容を深く聞くこともなく毎度おなじみのイエスマンで安請け合いをした。東海支部の新進部会は当社で引継ぎ会をやるのが例年決まっており、メンバーの初顔合わせはホームだったので気が楽だった。それも相まってか少しかましてやろうと思い、ちょっとおチャラけたキャラクターを作った。この瞬間に新進部会での「私」が出来たと思う。

定例会は月一で各メンバーが所属する会社で実施し、行く場所それぞれで目に映る建物・製品、空気（温度）、人から刺激を受けた。ふと就活時代を思い起こすような感覚もあり新鮮さもあった。私は定例会後の懇親会が大好きだった。もちろん懇親会で飲めるアルコール類は私の心を躍らせたが、緊張がほどけたメンバーの話聞くことも楽しみであった。年に数回開催されるイベント（行事）では若さと触れ合う機会もあり名城大学で私はいくつか若返った気がした。過去の自分が大人（社会人）を視る目が今は自分に向けられている不思議な感覚だった。

コロナウイルスは社会、生活もちろん新進部会にも大きく影響を及ぼした。定例会は全てリモートとなりイベントも縮小または中止と大いに盛り上がってきた、このメンバーでの新進部会は白けてしまったと思う。次の世代にバトンは渡り、回復の兆しの見えない世の中ではあるが今のメンバーが私の文章を見て、新進部会の「本当の楽しさ」を感じてくれることを願います。

## 新進部会の活動を振り返って

木本 野樹 (日本製鉄)

2019年半ばからの約半年間、新進部会に参画させていただきました。学会関係のスタッフ活動は初めての経験であり、知人もいない中でうまくやっていたか不安もありましたが、初めて出席させていただいたミーティングでは、当時リーダーの金澤さんをはじめメンバーの皆様に温かく迎え入れていただいて大変ありがたかったことをよく覚えています。

本活動を振り返ると、企業・組織の異なる多くの人と関わりを持つことができたこと、また工場見学において塑性加工が様々な形でモノづくりに活用されていることを目の当たりにすることができたことなど、充実した体験をすることができました。特に印象的であったのは、新進部会の活動目的の1つである「つながり」の構築を皆様が大事にされているということです。特に懇親会では心を開いて会話をすることで、会う頻度は月に1回ですが時間以上にお互いを知ることができたように思います。また、お互いを知り合うことで、ますます会話や議論がしやすい雰囲気となって、一体感を持って運営活動にも取り組むことができるという好循環を生み出していたように思います。

メンバーの皆様と打ち解けてきてきたところで、私は異動の辞令を受けて後任の名取に託すこととなり、大変短い期間での参画となってしまいましたが、かけがえのない貴重な時間を過ごさせていただきましたこと、深謝申し上げます。最後に、塑性加工学会東海支部「新進部会」の皆様への益々のご発展を祈願致します。

## 新進部会スタッフ活動を振り返って

吉田 智徳 (株式会社 UACJ)

2019年6月より2年弱の間、新進部会スタッフを担当させていただきました。途中からの参加ということもあり打ち解けることができるか不安もありましたが、参加時点で新卒3年目と若輩者であることもあり優しく接していただきました。コロナ禍前は毎月のように開かれた懇親会も打ち解ける助けになりました。

毎月の部会における他社の見学は、日頃の業務とは全く異なる分野を知ることができとても勉強になりました。見学以外にも、普段は成形試験などが主である自身の業務で金型自体を扱う必要が生じて基礎知識が不足していた際に、詳しい新進部会スタッフの諸先輩に質問し、教えてもらったことを覚えています。また、部会の行事にも携わることができ、参加者の塑性加工への理解が深まっていれば幸いです。

コロナウイルスの影響でスタッフ研修会が中止となってしまったことが心残りではありますが、非常に充実した時間を過ごすことができました。現在は異動により東海地方からは離れてしまい、一緒に活動したメンバーとお会いすることもなかなか難しくなりましたが、共に塑性加工分野を

盛り上げていけるように頑張っていきたいと思います。

## 新進部会のコロナ狭間世代を振り返って

赤池 淳 (JFE スチール)

2019年度から2年間、新進部会のメンバーとし活動してきました。一番の若手ではありましたが、新進部会メンバーの菩薩のような慈愛に満ちた心により、大きく羽を伸ばして活動することができました。メンバーの皆様、また今回新進部会のチャンスをいただけた前任の佐々木さん並びに了承していただいた JFE スチールに、この場を借りて深く感謝申し上げます。

1年目は毎月の出張が楽しみで仕方なく、工場見学や会議後の飲み会に参加しておりました。まさしく新進部会の理念に沿った「横の繋がり」を感じる1年でした。特に他業種の工場見学に行く機会など無いため、大変新鮮でした。逆も然り、自分たちの工場を他業種の人から見ると、普段自分が感じている感覚とは違う観点からの質問もあり、自分の会社の魅力に気付ける非常に良い体験でした。

楽しい新進部会も束の間、暗黒の2年目がやってきました。1年目の終わりからコロナが流行し始め、会議すらもままならない時期がありました。新進部会で最も楽しみにしていた沖縄旅行研修も中止になってしまいました。その中でも Web 会議ツールなどを使い、知恵を出し合い行事を作り上げられたのは私の人生をととても豊かにしてくれました。

最後に、一つ心残りなのが、20年度メンバーと最後まで直接お会いすることができなかったことです。18～21年度のリーダーの皆様、合同懇親会の企画をお願いします。

本当に2年間充実した活動でした。ありがとうございました！！

## 新進部会の活動を振り返って

名取 純希 (日本製鉄)

私は2020年度に前任の木本の引継ぎとして新進部会運営に参加させていただきました。当時は活動内容を知らなかったため、活動内容やメンバーと上手く交流できるか非常に不安でした。また、本年度はコロナウイルスの影響によって面着でのミーティングや工場見学なども軒並み中止となり、足元の業務に追われながら3カ月程度が経過したことを覚えております。しかし、活動を推進するというメンバーの高いモチベーションによって、Web会議でのミーティングやコロナ渦でも実現できる行事を企画するなど、新進部会として何ができるかを最大限模索した1年だったと思います。私は他のメンバーについていくだけでしたが、本活動は異業種かつ活力あるメンバーと交流することができ非常に有意義だったと感じております。

活動が制限される中で特に印象的だったことが企画行事である Web セミナーです。学会の講演会に

付随することが多いと聞きましたが、開催形式やテーマ、運営等を議論し、当日の運営では初めて一部のメンバーと面着交流することができました。会議も基本的には和やかに進みながら意思決定をしっかりと行い、行事を成功させたことに新進部会の活動意義が集約されているのではと感じました。

私は業務都合上実質1年間しか新進部会に携わることができず大変恐縮ですが、本活動を通じて東海地区の塑性加工分野の若手の皆様の熱意に触れることができました。環境変化にも負けず、塑性加工学会東海支部新進部会の皆様の益々のご活躍を応援しております。

## 新進部会のスタッフ活動を振り返って

高橋 嘉仁(デンソー)

2020年度から2021年度の2年間、新進部会のスタッフを担当させて頂きました。1年目はサブリーダーとして、2年目はリーダーという大役を任せて頂きました。

新進部会の活動は、担当するまで存じておりませんでした。先輩から引継ぎの際に、社外の塑性加工に携わる方との交流ができ、毎月スタッフ各社/各機関の工場見学ができるということを知り、楽しみにしていました。しかしながら1年目の1回目のMTGは、まさにコロナが急拡大し対面で顔合わせができない状態でオンラインでの開催となり、工場見学もできませんでした。当時はオンラインMTGのやり方もおぼつかない状態でのスタートで、正直、新進部会の行事の準備の進め方もよく分かっていなかったため、当時の2年目スタッフの方々におんぶに抱っここの状態で、スタッフの方と面直でお会いすることもなく1年目は終わってしまいました。

そんな中で2年目からはリーダーという大役を任されましたが、オンラインでのMTGにも慣れてきて、コロナによる出張規制も緩和された甲斐もあり、行事を企画/準備していく中でスタッフの方々と実際に会えたことが、旧友に会えたかのように嬉しく感じたことをよく覚えています。この社外の塑性加工に携わる若手同士の繋がりを持つことが、新進部会の醍醐味だと感じました。今後の新進部会の益々の発展を期待しながら、私も塑性加工の更なる発展に貢献できるよう精進していきたいと思っています。

## 新進部会スタッフ活動を振り返って

浅井 一仁 (豊田工業高等専門学校)

2020年から東海支部新進部会に参加させていただいたはや2年が過ぎました。当時は、コロナ渦中のためオンラインによる活動となりました。定例会議では、各々の仕事紹介や今後の新進部会の活動、工場見学などについて話し合い、東海の塑性加工に携わる企業や市工研の方々と交流する機会を頂いたことを本当に嬉しく思います。この2年間、集まって交流できなかったことは残念に思いますが、オンラインというツールを用いて、新進部会の目的である『意見・情報の交換を行い、視野を広げ、自分の立場

を見直し、自己研鑽の糸口を見いだす機会』を継続し、多くの人と交流できたことと思われま

す。最後になりますが、次年度の東海支部新進部会の皆様のご健康とより一層のご活躍をお祈り申し上げます。

## 新進部会スタッフの活動の振り返り

廣瀬 天人（青山製作所）

2020年度から2年間、新進部会運営スタッフを務めました。

2020年度はコロナ禍の真ただ中で、ミーティングはWEB開催となり顔合わせも画面越しでした。

それから2年間、コロナは収まらずミーティングはすべてWEB開催、工場見学はできない、1年目はメンバーとお会いすることなく終わり、2年目も2度お会いするだけでした。

ただ、そんな中でも3回/年の行事を中止とすることなく開催できたことはメンバー丸となってできた証拠であり誇りに思います。

1年目は何も分からず、ほとんどが他人任せ、活動内容を覚えるだけでした。正直、企業間で集まって話がまとまるものなのか、疑心暗鬼でしたが、そんなことは全くなく、メンバーが意見を言い合い、企画をやり遂げるのを見て驚いたのを覚えています。

2年目は行事①のメイン運営を任せられ、メンバーの力を借りながらも開催することができました。

参加者やメンバーから感謝やねぎらいの言葉を頂いた時は喜びを感じました。

WEBを使用した非対面式のセミナーやオンライン工場見学など、新しい試みを経験できたことは今後の取り組みに繋がるのではないかとポジティブに考えます。

最後に、やはりコロナ禍により企業間の『横のつながり』を深めることがあまりできなかったことが悔しいです。後任者には、この状況が落ち着き、様々な経験ができることを願います。

## 新進部会スタッフの活動を振り返って

石井 悠嗣（三菱重工業）

2020年度から2年間、新進部会のスタッフとして活動させていただきました。1年目は広報、2年目からは加えて、各イベントの実施担当や、「あゆみ」編集などにも携わらせていただきました。

新進部会のスタッフとなった2020年度は、新型コロナウイルスが流行し始めた中で、高熱(結果的には普通の風邪でした,,)を出してしまい、出勤を控えていたため、図らずもリモートワーカーの先駆けとなってしまった年でした。そのような事情もあり、新進部会の活動も、慣れない在宅勤務の環境下でWEBミーティングにうまく繋がられないことも多く、交流を深めきれないまま終わってしまったことが心残りです。

2年目となった2021年度は、前年度の反省を活かし、少しは積極的に発言して参加できるようになったかなと思っております。そのおかげか、前年度よりもより深くイベントに参加できたので、多くの刺激を受け、新進部会に参加して良かったなあ、と感じています。

この「あゆみ」の発刊が終わると、後任者への引継ぎになりますが、年度を跨いでもスタッフ間の繋がりを保ちつつ、コロナ禍が落ち着いたら飲み会に行きたいです。こちらがメインイベント(?)との噂もあるので、早くマスク無しでも安心できる日常が来ることを願っております。

最後になりましたが、新進部会を支援してくださっている、幹事会の方々を始め、多くの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 新進部会のスタッフ活動を振り返って

稲垣 薫 (アイシン)

2021年度から新進部会のスタッフとして活動に携りました。コロナ禍の真ただ中での活動となったため、活動は基本的にWeb会議で行う形式で進行した。お互い顔の見えない中ではあったが役割分担、行事等のイベント企画では活発に意見が飛び交う場面が多く活動開始当初から堅苦しくなく、発言しやすい雰囲気だった。

コロナの第5波が去った11月5日の行事で初めてメンバーと顔を合わせることが出来た。その後はこれまで以上に話しやすい雰囲気となり、全員思ったことが言えるようになったように思う。楽しく新進部会の活動を行うことが出来た。

昨今、自働車の電動化、DX、カーボンニュートラル等が叫ばれ、自動車業界では大きな変革期だといるところで耳にし、元気のいい会社と言えば真っ先にGAF A等のIT企業を思い浮かべる。そんな中、塑性加工でどんなことが出来たら貢献出来るのか、日々もやもやしていたが、メンバーそれぞれの業務紹介を聞く中で、みんな何が正解か分からない先の見えない道を悩みながら進んでいるんだと感じた。任期があと1年あるので、新進部会の活動を通じて、塑性っておもしろいんだぞ！と若手や学生に伝えることが出来るイベントを企画していきたい。

事の大きい小さいはあるが、少なくとも塑性の仕事に自信を持って「こんなにすごいんだ」と話すメンバーの姿は輝いて見え、刺激になった。

## 新進部会での活動を振り返って

池田 善人 (愛知製鋼株式会社)

令和3年4月から新進部会スタッフに着任し、もうすぐ1年が経ちます。

コロナ禍の真ただ中ということで、3月のオンライン定例ミーティングでの顔合わせと引継ぎが初

めての活動となりました。右も左もわからず、恐縮しながらの参加となりましたが、数時間の画面上の対話と、とても淡白な引継ぎに、大きな不安を覚えたことを覚えています。新進部会とは、最初に聞いていた情報では、所属する会員の工場を見学したり、その他の遠方の企業などに宿泊遠征見学（旅行？）できたりと、非常に魅力的な経験ができるコミュニティとのふれこみでした。しかし、このコロナ禍で活動が極端に制限され、現状の活動は以前のそれと全く異なることがわかり、少なからずショックを受け、このご時世をうらめしくも思いました。

しかしそんな中でも、コロナ禍ならではの企画・運営をすることができていると思います。急速に広まったオンラインイベントを活用し、講演会を企画・実施して成功を収めたり、令和4年1月にはオンライン工場見学も予定しております。対面式のイベントが基本だった以前と比較し、新しい形で活動の幅を広げることができていると思います。任期はあと1年残されていますので、この1年の活動とはまた違ったイベントを行ったりして、この新進部会の活動が衰退しないよう、いや発展させられるように努めていきたいと思えます。

といろいろ書きましたが、コロナが早期収束し、もっと刺激的な活動ができますように。

## 新進部会の活動を振り返って

鈴木 哲（トヨタ自動車）

2021年度より、新進部会メンバーとして活動させて頂きました。コロナの影響もあり、リモート開催が主の一年でした。せっかくご縁のあったメンバーとも、思うような交流が出来ない一年で、その点は素直に残念に感じています。しかし、出向中の後輩が同じチームだったり、出身大学が一緒のメンバーがいたり、新進部会を通じて、人の輪がまた一つ大きくなったと感じました。

DXに代表されるようモノづくりが大きく変化している中、今まで以上に広い視野や、会社間の交流が求められていると感じています。それは正に、この1年行ってきた新進部会の活動だと思います。この人脈を活かし、会社の枠を超えた新たな連携やモノづくりに繋げて行くことが、我々若手技術者に求められているのではないのでしょうか。

また、コロナ禍では従来の様な企業間交流がし難くなっています。変わった世界において、”どの様にして企業間の交流を深めるか？” ” 塑性加工の技術を外部に発信していくか？” といった命題に応えるのも、我々に求められていると感じています。どうしても” コロナのせい” と思ってしまう自分もいますが、この新しい世界での、人とのつながり方、発信の仕方、企画を創出する力、その様な点を鍛えながら次年度の新進部会の活動も、よりよいものになりたいと考えております。

最後になりましたが、本年一緒に活動した新進部会メンバー、この様な貴重な機会を与えてくださった塑性加工学会、東海支部の皆様の益々のご発展を祈念し、振り返りとさせて頂きます。

## 新進部会での活動を振り返って

吉村 悠佑 (JFE スチール)

21年度より新進部会のメンバーとして活動させて頂いています。新進部会の活動に本格的に参加する前は他業種といっても同じ製造業なので共通点は沢山あると思っていましたが、いざ始まってみると自分が今まで知らなかった製品や製造プロセスが多く、一口に塑性加工といってもここまで幅広いものなのかと驚きの連続でした。他業種の方との交流ができる新進部会での活動は自分にとって大変有意義なものとなっております。

一方で自分自身の活動を振り返ってみると開催する企画について活発に議論がされている中、ほとんど発言ができず、自分が主担当となった企画では準備が遅くなりメンバーの皆様に迷惑をかけてしまいました。もっと積極的に行動するべきだったなと何かと反省すべき点が多い1年だったと考えています。

来年度は今年の反省も踏まえ積極的に、全力で楽しみながら活動することで新進部会のさらなる発展に貢献できるように頑張りたいと思います。また、今年度は残念ながらコロナの関係で定例ミーティングのほとんどがオンラインでの開催となり、直接お会いすることがあまりできませんでした。来年度こそは新進部会の目的の一つであるメンバー同士の横のつながりをさらに強固なものにするために直接お会いして工場見学や懇親会をやっていけたらいいなと感じております。

## 新進部会のスタッフ活動を振り返って

劉 午陽 (UACJ)

2021年から新進部会のスタッフを務めさせていただきました。新進部会は初めてで、分からないことばかりでしたので、スタッフの皆様には何かとご迷惑をかけたと思います。コロナ禍のため、定例会議などはほとんどオンラインで行いました。そのため、最初の頃は不安でしたが、皆様のお力添えのおかげで、何とか無事に一年間終わることが出来ました。皆様と一緒に活動させていただき成長することができました。

一年目では、行事③（スタッフ研修会）のサブ担当となりました。従来では、スタッフの皆様が現地へ工場見学しに行きますが、コロナ禍のため、現地工場見学がほとんどできなく、オンラインの工場見学会ができる場所を探すために、他のスタッフ様と一緒に色々工夫しました。

一年間新進部会のスタッフを務めることで、社外の仲間が出来、ものづくり技術に関する視野も広げられ、様々なことを学びました。日本で働いている外国人の私にとっては、スタッフの皆様との交流、資料作りなどのことにより、日本語能力も日々向上していると感じ、非常に嬉しいです。これから、二年目に入っており、新進部会の運営、企画などにより力を入れたいと思います。

## 新進部会活動を振り返って

田中 智也（名古屋市工業研究所）

2021年から新進部会スタッフとして参加させていただきました。2020年からコロナウイルス感染症が流行し、直接お会いすることが難しい中での新進部会の活動となりましたが、2020年のスタッフの皆さんがweb会議システムを用いた定例会合や各行事などの新たな体制を整えていただき、ご協力いただいたOBの方、今年のスタッフの皆様には感謝の念に堪えません。

例年の定例会合、企画とは異なり、ほぼ全てをweb会議にて行いました。近年、自動車のEV化、カーボンニュートラルなどの環境問題対策といった大きな転換期を迎える中、定例会合での会社紹介では普段お聞きできない環境問題への取り組みや部品製造の状況など、大きく変化してきている社会情勢について情報交換を行い、異分野で働かれる皆様の抱える問題について知ることができる機会を頂けました。また、行事では当日に集合し皆さんと一致団結して盛り上げるという、大変貴重な体験をさせていただきました。直接お会いすることが難しい状況の中、大変有意義かつ非常に楽しい時間を得られたと感じております。

定例会合毎に行っていた見学会が中止となり、直接お会いできる機会が非常に少なくなってしまったのは大変残念でしたが、社会状況が落ち着きOBの方々を含め皆様と時間を気にせずにお会いできる機会があることを願っております。最後になりますが、塑性加工学会、東海支部、新進部会の皆様の益々のご発展を祈願いたします。

## 5. 編集後記&謝辞

はじめに、本会報誌「新進部会のあゆみ Vol. 7」の発刊にあたり、ご寄稿いただいた皆様に深く御礼申し上げます。ご多忙の中ご対応頂き誠にありがとうございました。本会報誌は2019年度から2021年度までの約3年の取り組みについて紹介しております。

活動を振り返ると、コロナ渦での活動が特徴的な数年だったと思います。月に1度行っている定例ミーティングは全てリモートとなり、楽しみにしていた定例ミーティング後の飲み会が開催出来ないという筆舌に尽くしがたい困難な運営となりました。そんな中でも新進部会の基本理念である『従来の常識に捕らわれず、自由闊達な雰囲気の中で、将来につながる活動を行い学会が真に世の中のためになる本物技術発祥の泉と成り得る』の通り、自由に意見を言い合い活発な活動が出来たと思います。本誌「スタッフの言葉」を参照頂くと分かる通り、新進部会は楽しみながら活動出来る場です。35歳以下の若手の皆様、及び精神的に若い方は是非新進部会のメンバーになってください。一緒に塑性加工を盛り上げていきましょう。

今後も新進部会では定期的に行事を開催してまいります。行事開催案内は、東海支部ニュースおよび学会誌の会告にて学会員の方に直接送付しております。それ以外の方も、東海支部新進部会 HP(<http://www.jstp.or.jp/commit/tokai/sin/index.html>)をご覧頂くことで、行事情報などを得ることができます。

至らないところもございましたが、次号も暖かく見守って頂けますと幸いです。

【編集責任者 稲垣 薫】

日本塑性加工学会東海支部新進部会あゆみ Vol.7

令和4年3月25日 発行

編集人 稲垣 薫、石井 悠嗣

発行人 高橋 嘉仁

〔 本誌は新進部会員、支部賛助会員、支部幹事その他関連部署に  
無償で配布します。無断転載を禁じます。 〕